

令和6年度（2024年度）第2回東海市3R推進協議会 次第

と き 令和7年（2025年）3月18日（火）

午後2時～

ところ 東海市役所403会議室

- 1 第4次東海市ごみ処理基本計画後期計画に定める具体的な取り組みの実施について（資料1）
- 2 主な事業の実績について（資料2）
- 3 西知多クリーンセンターの運営について（資料3）

第 4 次東海市ごみ処理基本計画後期計画の進行管理及び具体的な取り組みについて

1 減量目標について

(1) 一人 1 日当たりのごみの排出量

ア 計画の内容

一人 1 日当たりのごみの排出量（資源を含む）は、平成 2 6 年度の実績（920 g／人・日）から令和 6 年度までに 7 0 g 削減する。

イ 一人 1 日当たりのごみの排出量（資源を含む）の推移

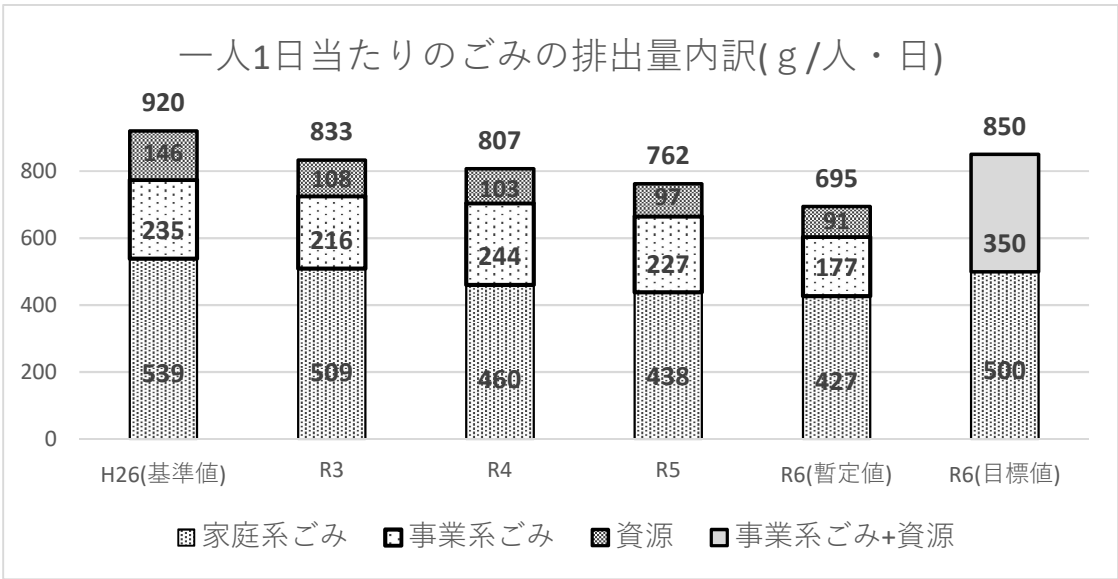
	H26(2014) 基準値	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6(2024) 暫定値 4 月～1 月	R6(2024) 目標値
一人 1 日当たりのご みの排出量(資源を 含む) (g)	920	833	807	762	695	850

※R 6 暫定値は 1 月末現在

（ごみの総排出量（4 月～1 月）＋資源回収量（4 月～1 月））÷ 1 月末人口÷306 日

ウ 評価・分析

令和 6 年度の一人 1 日当たりのごみの排出量（資源を含む）は 1 月末時点の暫定値で 6 9 5 g となり、昨年度の 7 6 2 g から 6 7 g 削減する見込みとなった。主な要因としては、事業系ごみが大きく減少したためで、公園・街路樹維持管理受託業者等の枝木及び刈草を木材リサイクル業者で処理したことが考えられる。



(2) 一人1日当たりの家庭系ごみの排出量

ア 計画の内容

令和2年度(2020年度)までに一人1日当たりの家庭系ごみの排出量(資源を除く)を500g以下に削減することは達成できなかったが、引き続き令和8年度(2026年度)に487g以下に削減する。

イ 一人1日当たりの家庭系ごみの排出量の推移

	H26(2014) 基準値	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6(2024) 暫定値	R8(2026) 目標値
一人1日当たり の家庭系ごみの 排出量 (g)	539	509	460	438	427	487

※R6は1月末時点の暫定値

家庭系ごみの総排出量(4月～1月)÷1月末人口÷306日

ウ 評価・分析

令和6年度の実績は1月末時点の暫定値で427gとなり、昨年度の438gから11g削減する見込みとなった。主な要因としては、従来ごみとして出していた製品プラスチックについて、令和5年の9月からプラスチック資源としてごみ集積場所に出すことができるようになり、市民に制度が浸透したことが考えられる。

2 基本方針に基づく具体的な取り組み実績（R6）

(1) ごみ分別の啓発

ア 市広報媒体による普及啓発

㍿ 広報とうかい5月1日・15日合併号でごみと資源の出し方の特集記事を掲載した。

㍿ チラシ等を作成する際、市ホームページの「ごみと資源の出し方」のページのQRコードを掲載した。

イ 情報発信について

3Rやごみの出し方に関する情報を市公式LINEで発信した。発信内容は以下のとおり。

- ・ペットボトルの出し方について
- ・不用品のリユース（ジモティー）
- ・リチウムイオン電池の出し方
- ・スプレー缶の出し方
- ・3010運動について

ウ その他

令和6年4月から市公式LINEにてごみ・資源の出し方を検索することが可能となった。市公式LINEでは、ごみの他にも市民の暮らしに役立つ情報を集約しているため、市公式LINEアカウントの登録を今後も促していく。

※ごみ分別アプリ「東海なび」は令和6年6月末で廃止。

(2) 3010運動の実施

ア 情報発信

㍿ 市公式LINEにて「3010運動」を掲載し、食品ロスの啓発を行った。

㍿ 事業所を対象とした3010運動の記事の掲載を依頼した（商工会議所会報誌）。



(3) 食べきり・使いきりの推進

ア 地域への啓発

啓発チラシを作成し、東海市 3 R 活動地域推進員を通して全コミュニティへ回覧及び掲示を依頼した。

イ 情報発信

(ア) 10月の食品ロス削減月間に合わせて、広報とうかい10月1日号の裏表紙にエコレシピを掲載した。

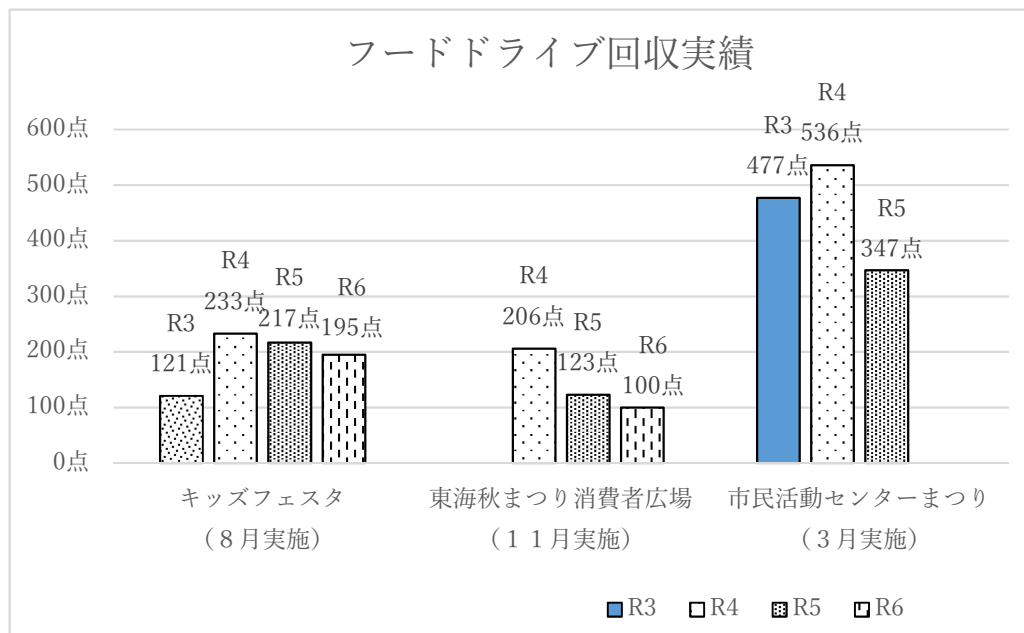
(イ) お片付けセミナーの資料と併せて「食品ロス事前チェックシート」を配布し、食品消費行動を見直すきっかけづくりとした。

(ウ) 市ホームページで「3きり（水きり・食べきり・使いきり）」の紹介ページを作成した。

ウ 全市立保育園に食品ロス啓発紙芝居の読み聞かせを実施するよう幼児保育課へ依頼した。

エ イベントでの啓発

(ア) フードドライブを実施した。



※令和2・3年度の東海秋まつり消費者広場は開催が中止されたため実施していない。

※令和3年度より市民活動センターまつりで回収を実施した。

(イ) 東海秋まつり消費者広場で、啓発ポスターを掲示した。

(4) 水きりの推進

ア 情報発信

広報とうかい5月1日・15日合併号の特集記事で水きりを紹介した。

イ イベントでの啓発

東海秋まつり消費者広場の来場者へ水きりネットを無料配布した。

(5) 事業系一般廃棄物の適正処分と資源化の推進

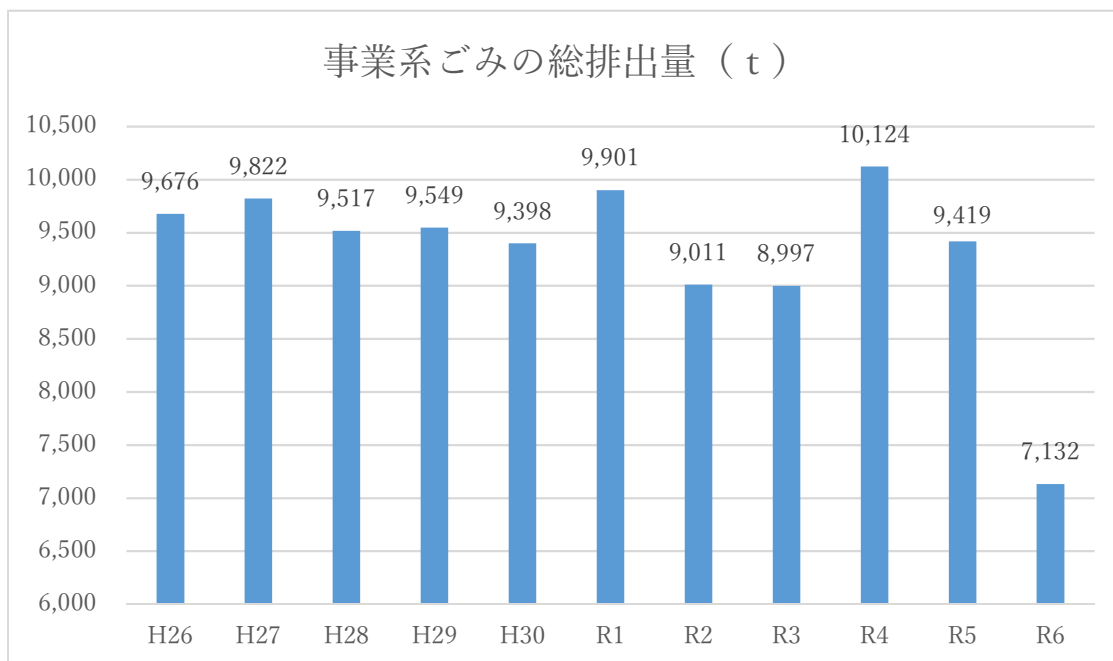
ア 適正な排出方法の周知について

事業系ごみの排出方法やリサイクル方法を紹介するパンフレットを現在作成している。

イ 産業廃棄物の混入防止について

事業者より問い合わせがあった際には、一般社団法人愛知県産業資源循環協会を紹介した。

【事業系ごみ総排出量】



※令和6年度の総排出量は1月までを実績、2月～3月分を伸び率で算出。

(6) その他

ア 小学生の施設見学の受入れ

社会見学の一環として、依頼のあった小学校を受け入れ、ごみ減量・資源化への意識高揚を図った。

(R 6 年度受入れ校…加木屋小学校)

イ 東海秋まつり 2024 消費者広場

(ア) R 5 年度に引き続きプラスチック使用製品の一括回収の制度、ペットボトルの水平リサイクル「ボトル to ボトル」の取り組みを周知した。

(イ) フードドライブ及び子ども服の「おゆずり・おさがり交換会」の実施

フードドライブでは、100 点の食品が集まり、市内の福祉施設・団体へ支援し、有効活用していただいた。

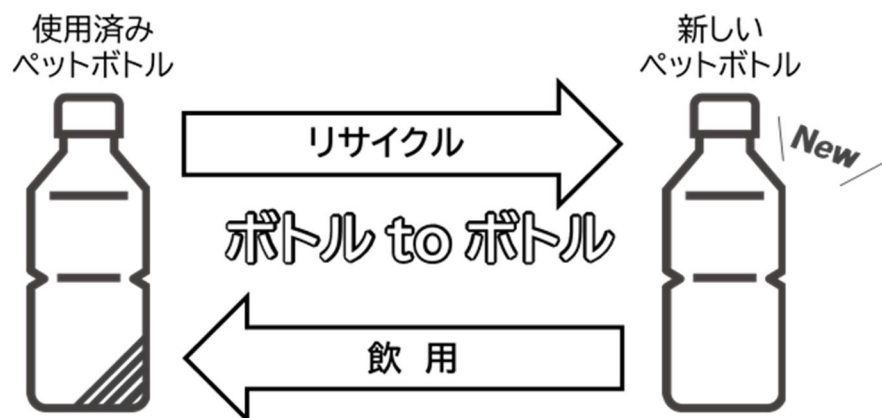
子ども服の「おゆずり・おさがり交換会」は、まだ着られる子ども服やマタニティウェアを必要としている方に譲ったり、おさがりに活用することで、「ごみの減量化」と「子育て支援」を推進することを目的として試みたもの。423 枚の子ども服を持ち帰っていただき、一部の服は、東海樟風高校が取り組む「届けよう、服のチカラプロジェクト」に活用していただいた。



＜主な事業の実績＞

1 「ボトル to ボトル」の取り組み（令和5年（2023年）7月～）

令和5年（2023年）7月にコカ・コーラボトラーズジャパン株式会社とペットボトルの水平リサイクルについての協定を締結し、令和6年（2024年）4月から市内で回収したペットボトルをリサイクルし、同社飲料製品のペットボトルを製造している。

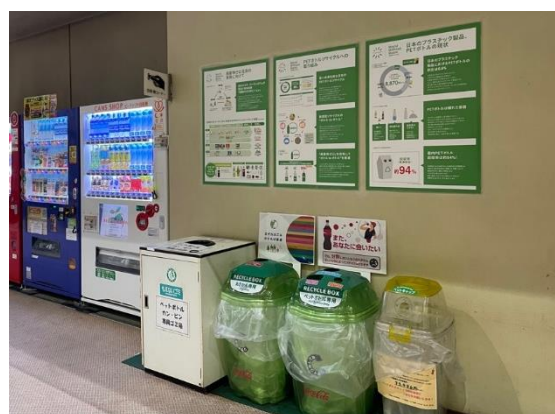


啓発実績

- (1) 東海秋まつり2024消費者広場でペットボトルの処理フロー図の展示及び啓発チラシを配布した。また、消費者広場のクイズラリーはボトル to ボトルに関する設問を出し、来場者に処理過程を説明しながら楽しく学んでいただいた。
- (2) 市役所及び市民体育館に、ボトル to ボトルを紹介するポップのついたペットボトル回収ボックスを設置した。このボックスは、ペットボトル、ラベル、キャップをそれぞれ分別して入れる口がついており、視覚的に分別を促すことができる。



東海市役所



市民体育館

2 資源の回収量について

令和5年度（2023年度）の資源回収量は4,039.0tで、令和4年度（2022年度）と比べ201.6t減少した。なお、令和5年度の資源売払収入は約5,273万円となった。

品 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度 (4～1月)
ペットボトル	339.3 t	323.3 t	266.8 t
プラスチック製容器包装・プラスチック使用製品	1,111.8 t	1,145.5 t	1,018.0 t
トレイ等の発砲スチロール	4.7 t	3.5 t	2.9 t
紙類	2,083.4 t	1,912.3 t	1,322.8 t
布類	183.8 t	158.7 t	107.8 t
アルミ缶	119.9 t	118.7 t	102.9 t
スチール缶	72.7 t	64.1 t	47.0 t
びん	197.0 t	189.6 t	187.9 t
ペットボトルキャップ	14.1 t	11.3 t	8.4 t
天ぷら廃油	7.2 t	6.9 t	5.4 t
インクカートリッジ	0.2 t	0.3 t	0.2 t
小型家電	106.1 t	104.7 t	63.4 t
羽毛ふとん	0.2 t	0.1 t	0.1 t
合 計	4,240.6 t	4,039.0 t	3,133.6 t

- (1) 紙類について、新聞を購入する家庭の減少や、雑誌類のデジタル化により回収量が減っていると考えられる。雑がみの資源化については、「雑がみの種類がわかりにくい」という意見があるため、より一層わかりやすい情報提供に努める。
- (2) びんについて、市内のスーパー等で回収しなくなったため、市の資源分別収集に出す市民が増えたと考えられる。そのため、全体の資源量が減少する中で前年度並みの回収量となっている。今後の資源化方法が課題である。
- (3) 天ぷら廃油について、S A F（航空燃料）等の次世代エネルギー化への需要が高まっており、回収量を増やすため啓発に努める。
- (4) 小型家電について、令和5年度まではごみ集積場所やごみとして持込まれたものも小型家電として資源化していたため、大きく減少する見込み。小型家電を資源として回収していることを知らない市民も多いと感じるため、「貴重な金属を含む資源」ということを周知し、リサイクルセンターで無料で回収していることをアピールしていく。

西知多クリーンセンターの運営について

- ・ 令和 6 年 3 月末をもって東海市清掃センターでのごみの受入れを終了し、西知多クリーンセンターへ移行した。令和 5 年 1 2 月より移行の周知を開始したため、大きな混乱はなく移行することができた。
- ・ ごみの持込みについて、西知多クリーンセンターでは、ホームページから車のナンバーの登録をしたり、混雑状況をライブカメラで確認することができる。
なお、車のナンバーを登録することで次回以降の持込みをスムーズに行うことができる。
- ・ 令和 5 年度までは、清掃工場と資源分別収集常設場が隣接していたため、市民がごみを持込んだ際に資源物も持込んでいたが、西知多クリーンセンターへ移行後はごみと資源物の持込み場所が離れてしまい、資源物の持込みが減ったと考えられる。
- ・ 西知多クリーンセンターの見学について、学校は 3 校、一般は 2 7 組の申込みがあった。(令和 6 年 7 月～令和 7 年 3 月)